

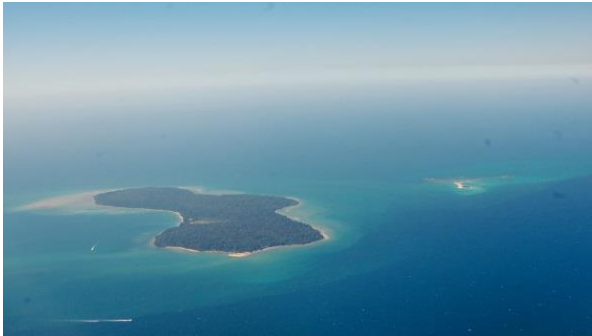
ボルネオ紀行

2016. 03. 18

文・写真 山際泰造

1日目：クアラランプール第二空港 12：30 発のエア・アジア便にて出航、15：05 にコタキナバルに着きました。

飛行機の窓から眺めると、南シナ海のエメラルド色の海にはいくつかの島々が浮かんでいるようでした。



南シナ海の島々

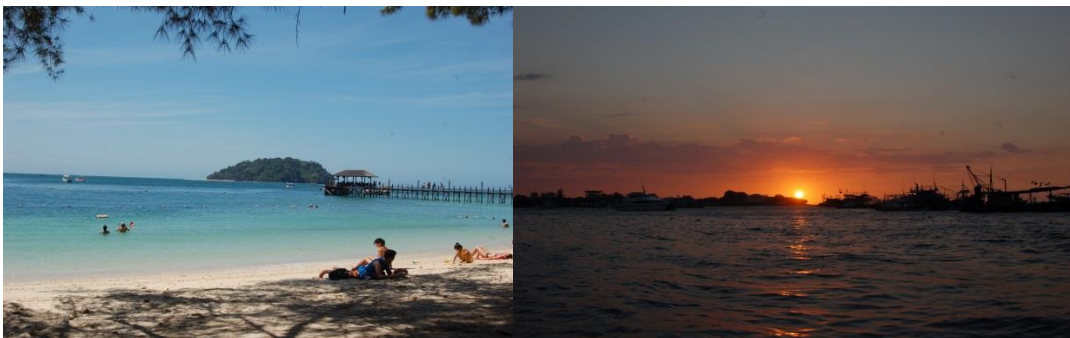
2日目：朝8時フェリーターミナルからボートに乗り、トウク・アブドール・ラマン公園の一つであるマヌカン島に上陸しました。

マヌカン島はサンゴ礁に囲まれ、素晴らしいリゾート気分を味わいました。その時ふと浮かんで来たのが、小学唱歌の「ヤシの実」でした。

“名も知らぬ遠き町より流れ寄る老輩ひとり、……”

夕方はフェリー乗り場近くのセントラル・マーケット（青森県八戸市場のようなもの）に立ち寄り、新鮮な魚料理を堪能しました。

コタキナバル港からの南シナ海に沈む夕日が荘厳でした。



マヌカン島

南シナ海に沈む夕日

3日目：いよいよ世界自然遺産のキナバル公園に向かいました。

朝8時頃ホテル近くのバス・ターミナルよりミニバンに乗り約2時間でキナバル公園に着きました。

先ずボタニック・ガーデンに向かい様々な高山植物、花に出会いました。

特に大きなものなら 2 リットルもの水を貯めること事が出来る、ウツボカズラの花に出会いました。

この日は午後から天候が悪くキナバル山は観られず早々とロッジへチェック・インしました。



キナバル公園



ウツボカズラ

4 日目：この日も朝から雨模様でキナバル山は観られず、約 30Km 東にあるボーリング温泉へ向かいました。

この温泉は第二次大戦中、旧日本軍が見つけた温泉との事ですが、現在はキナバル公園の一大観光地との事です。

ボーリング温泉から約 20 分程歩いたところに今回の旅の目的の一つである、世界最大の花（直径 1m 前後）ラフレシアの保護区域に行きました。

そこの管理人（60 歳前後の男性）の方に区域内を案内して頂きました。

管理人さんの説明によると、ラフレシアは蕾（つぼみ）から開花するまで約 15 か月掛かり、しかも開花の期間は 1 週間程度との事です。

この日は 3 つの開花しているラフレシアが観られましたが、管理人さんの話だと毎日蕾の管理が大切だということです。

つまり 1/65 週の周期で開花時期となるので、しかもその約半分は蕾の内に枯れてしまうとの事です。

さて 3 つのラフレシアを同時に開花させるには、何個の蕾が必要でしょうか？管理人さんは毎日保護地区を見回り、開花直前の花には虫に食われていないか、日差しに当たらない様に蕾に落ち葉を被せるのが、毎日の仕事だという事です。私が “It’s like your baby”（正にあなたの子供の様ですね）と言ったところ、管理人さんは、“That’s right”（その通り）と即座に回答しました。その姿には世界最大の花、ラフレシアを守っているんだ、というプライドを感じました。



ラフレシア



ラン

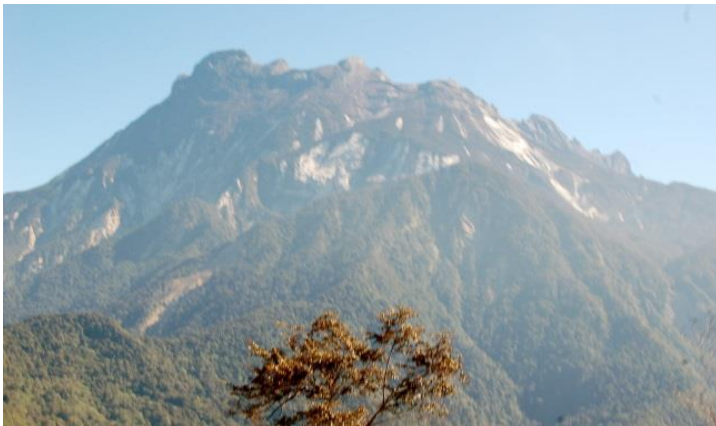


ラン



蝶

5日目：コタキナバル滞在最後の日で、今回はキナバル山は観られないのでは？
と思っていたところ、朝7時から30分程空が晴れ、正に奇跡的にロッジから
キナバル山（標高4,095m、東南アジアの最高峰）が観られました。
その後、10時頃雲空の中キナバル公園からコタキナバルへ向かいました。



キナバル山

最後に今回のマレーシア旅行、ボルネオ紀行を通じて平和の尊さ、自然の大切
さを改めて感じました。 完